◎令和４年度長崎県議会議員研修会（概要）

１．日　時　令和４年 10 月５日（水）13 時 10 分～14 時 10 分
２．場　所　議会棟 2 階会議室
３．演　題　「ケアラーに関する現状と支援の在り方」
４．講　師　一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき　山本 倫子　事務局長
５．概　要　以下のとおり

【ヤングケアラー】

・　私はヤングケアラーでした。
・　母が、私を産んだときに産後鬱になり、そのあとずっと寝たり起きたりでした。
　小学校の低学年から、買い物から何から家事を全部しており、小さいときの思いがずっと残っていたというのもあり、今回、ヤングケアラーの窓口を開設した。
・　長崎は、今回、ケアラー条例を作るが、全国を見ても少ない。
　全国から、ケアラーについての講演依頼があるが、本当に、ケアラーのことを知って欲しいというのが一番大きい。

【ケアラー、ヤングケアラーへの周囲の認識】

・　ケアラーやヤングケアラーは本当にいる。
・　それを、皆さんが本当に気づかない部分があり、このケアラーやヤングケアラーについて理解をもっと深めていただきたいと思っており、行政としてどんなサポートができるのか、本当に考えていただけたらと思う。
・　ケアラーの窓口を作った時に、高齢の女性から電話があり「介護をするのは普通でしょ、介護をするのは普通なのですよ。だから何でそれが問題になるのか。」、その他、沢山の方から電話がありました。
・　しかしながら、介護や看病をするのは悪いことではないが、それにより、ケアラー本人がマイナスを被るのが問題となる。
・　通常は大人の人が担うものを、子供が担わなければいけないのが問題です。
・　家事とか責任を抱えて、自分の時間があまり持てなかった。
・　私がクラブ活動に入ったところ、父が、私に言わずにクラブの先生に「家のことをしないといけないから、うちの子はクラブはできないのでやめさせてください」と連絡をし、クラブに入部して１日で、退部をした経験があり、中学も高校も同じでした。
・　クラブ活動にみんなが入っているのに、自分が入れないのはなぜだろうってずっと思っており、なぜ、他の友達と自分がこんなに差があるのだろうと感じた経験がある。
・　現在の日本の介護者は、大体７割が家族介護されており、ヤングケアラーは 20 人に一人と言われている。
・　特に子供たちは、ＳＯＳが言えない、どこに連絡していいか分からないし、経験をもっているわけではなく、親の介護とかお世話をしており、親の前では助けてとは言えず、子供がＳＯＳを発することができない状況がある。

・　神奈川県で調査があり、ケアラーという言葉を知らないのが、無回答も入れると、だいたい 50％ぐらいです。
・　ヤングケアラーという言葉を知らないのが、大体 60％ぐらいになる。
・　ダブルケアという言葉を知っているのが、これも大体 50％ぐらいです。
・　ヤングケアラーとかケアラーを知らない人が多いということと、自分がケアラー、ヤングケアラーだと気づいてない人が多い。
・　特に、私たちが支援をしている「ひとり親家庭」は、ダブルケアが多い。
・　国の調査で、17 人に 1 人が、中学生が家族の世話をしている、そして世話を始めた年齢が 9.9 歳、私は小学校 1 年生からしていた。
・　ヤングケアラーと思われる子供の現状は、中学生で幼い兄弟を世話しているのが約 80％で、家族の代わりに食事を作っている家事をしているのが大体 30％です。
　家計のためにアルバイトをしている子が 64.5％で、新聞配達をしている子がおり、何人かは家族のためにということでしている。

【ケアラー、ヤングケアラーの現状】
・　仕事をされている方たちが、家族のケアを担い、誰の助けも得られずに、仕事を辞めて、家族のケアを続けている人がいる。
・　どうしても、家族のケアを、他の人に頼むことができず、また、自分が見なければならないと思い、大学を卒業して、20 年間仕事はされずに親の介護をしている男性がいた。
・　外から見れば、引きこもりに見えるかもしれないが、その方は、ご自宅で一生懸命に親の介護を行い、助けてが言えなかった。

・　そして、家族のケアを担い、学校やクラブ活動に行けない子供たちがいる。
・　ある中学生の女の子、お母さんが再婚し子供が生まれたが、お母さんが精神障害で子育てができないため、その赤ちゃんを育てる手伝いをしていた。
　お母さんが「学校は休んで妹の面倒をみなさいね」と、私の前で言いました。私が、「いやいやいや、子供は学校に行かないといけないでしょ」と言ったら、その子は笑いながら「いや、お母さんが言うから私は〇〇ちゃんを見るから、学校は休む」と言います。
　でも、後から聞くと、「本当は学校に行きたい、でも、お母さんに嫌われたくないから、私は、学校行かずに面倒を見ている」と言います。
・　その子の勉強が遅れるといけないので、学習支援をしている。

・　ある家庭は、お母さんが病気で在宅介護、2 人いる子供さんは２人とも発達障害で両方のケアをしている。
・　お母さんは、本当は、常勤で働きたいが、働けないのでパートを掛け持ちしている。
・　お母さんに、「親を施設に預けてみては」といろいろな支援のお話をするが、躊躇される。
　お母さんは、「自分で看たい」という思いと「知られたくない」という思いがあると

言われた。
・　「家族のケアをすることは当然なんです」と言われる。
・　ある中学生の子は、「お母さんが大好きだから、お母さんに嫌われたくないから」と言う。
　だから、「いやだ」と言えない、「嫌われたくない」という思いが大きい。

・　子どもがケアによって生じる制約は、やっぱり宿題ができない。
・　学校から帰って友達が遊んでいるときに、家事をして洗い物をして、兄弟の世話、親の世話をして、さあ、宿題となるとできない子が多い。
・　あと、眠れない子供が多い。
　なぜかというと、今後どうしようかなあとか、これから私どうしていったらいいかなあと思って眠れない。

・　あとは、友達と遊ぶことができない。
　私は、友達が、遊んでいるときに買い物とか行っていた。
　チリシを、小学校一年生のときに買ってきてって言われて、買い物に行ったときに、同じクラスの子に揶揄(からか)われました。
　「お前、何でそんなとば買いよっとか」と、ずーっと揶揄われました。
　その度に、「いや、お母さんの手伝いしているんだよ」と言って明るい声で話をしていましたが、買い物しているのを揶揄われているのが恥ずかしいということよりも、「友達は今から遊びに行くのに、何で私は遊べないんだろう」と思っていました。

・　そして、自分の時間が持てなかった。
　母がいつ具合が悪くなるのかわからず、どうすることもできなかった。

・　相談したことのない六つの理由として、「何で相談しないの」と聞くと、「相談しても状況が変わるとは思わない」、「家族のことのために話しにくい」と、これは、私もそうでした。
　そして、「誰に相談していいのかがわからない」のです。
・　ヤングケアラーの窓口には、いろいろな相談電話がある。
　ヤングケアラーとは関係ない相談もあるが、「ここに架けていいかどうかわからないけれど、架けました」と言われる。
　そして、家族に対して偏見を持たれたくない。
・　私は、「お母さんちょっと変よね」と言われたことあり、ものすごく辛かった。
　母は、暴れるわけでもないし、ただ家事とかができなかったりするだけなので、そういうことを言われたくなかったというのもあった。
・　やはり、家族のことを知られたくない、これが一番大きいことだったと思う。

・　これは県が調べた部分になるが、ヤングケアラーの実態を把握していないという現

状があるのではと思っている。

- ヤングケアラーの問題は、家族内のことで表に出にくく、ヤングケアラーの認識をしている人たちがいない。
- ヤングケアラーは、介護なので長期になり、緊急度が高くないということで、把握ができないというのがある。

【ケアラー、ヤングケアラーの課題】

- 支援する際の課題ですが、家族や周囲の大人の認識がない。
- 近所の方に、「いやあ、いつもお利口ね。お手伝いして」と言われていました。
  そう言われると、「助けて」と言えない。
- あの中学生もそうでしたが、子供自身がやりがいを感じます。
  お母さんが私にお願いして、私がこうするとお母さんが喜ぶ、それにやりがいを感じていたという現状がある。
- この調査で見えてきたことは、やはり福祉、介護、医療、学校、関係機関において、ヤングケアラーに関する研修等が十分ではないのではないかと思う。
- ヤングケアラー研修をするのは、学校関係、県のこども家庭課の依頼、松浦市、それと今回のこれだけです。
- ヤングケアラーは、今、テレビとかいろいろ話題にはなっているけれども、研修の機会が無いというのがあるのではないか、認知度もそう高くはないのではと思う。

- そして、世話をしている家族がいる中学生の 6 割以上が相談した経験はない。
- 私達、支援団体が運営する相談窓口に繋がっていない可能性があり、ひとり親家庭福祉会は、いろいろな受託も受けており、独自事業で窓口もしているが、相談は、大体 6 時で終わりです。
  6 時以降、次の日の 10 時までは、5 回線の電話が、私に全部転送される。
  夜中に架かってくるのが月 30 件ぐらいで、一番多い時間帯が 12 時、 1 時、2 時までで、2 時以降は架かってきません。
  架けた方は、最初、私が出た時にびっくりされる、「でると思わなかった。でも、誰かに聞いて欲しくていろんなとこにかけた」と言われ、たまたま、うちに架けたら転送になって私が取っている。
  泣きながら「聞いてもらっていいですか」と言われる。
- どうしても、相談機関は夕方までで、夜というのは無いですが、悩むのは 1 人のときで、家事も全部終わり、何もかも終わった時で、夜というのが多いと思う。
- そして、ヤングケアラーに対する具体的な支援策がないという部分、そして支援に繋ぐための窓口が明確ではないという部分です。
- 九州でもうちと大分と福岡ぐらいしかない状況で、大分と福岡は、たぶん行政がしておられるのではないかと思います。

- そして、福祉機関の専門職の人達が、ケアラーを介護力と見なし、サービスの利用調整が行われるケースもある。

・　ある男性の方は、ケアマネージャーが来たときに、「息子さんが世話されるからこの部分はいいですね」と言われている。
・　でも、そうではないわけです。
　介護保険は、日本では、みんなが平等に受ける、その条件が揃っているのであれば、ケアラーを介護力として見なさずサービスの利用をしたほうがいいと思う。

・　そして、子育て世代の家庭の家事や子育てを支援するサービスが不足している。
・　介護は、サービスは介護保険があって充実はしているが、使うことをためらう傾向がある。

・　ある家庭は、やはり躊躇（ためら）っており、躊躇う方が多く、「施設に入れるのは悪いことだ」と言われる方もいる。
・　「専門の方がおり、きちんと親の介護をする」と話をしても、「自分が見ないと親戚から言われるとか、近所の方から施設に入れたと思われる、ここに住みにくくなる」と言われた方がいるように、どうしても躊躇う方もおられるというのが現状です。

・　そして、ヤングケアラーの社会的な認知度は低く、支援が必要な子供がいても、子供自身や周囲の大人が気づいていない。
　先ほど言った「頑張っているね」、「いつもお手伝いしてえらいね」という部分です。
・　ケアラーが「助けて」を言う機会を周囲が気づかない。
・　私も、子供の時に本当にきつい時があり、「助けて」を近所の方に言おうかなと思ったときがあったが、「いやあ、いつも頑張ってるねえ」と言われたら、「助けて」とは言えないです、子供というのは。
・　そして、行政、福祉、介護、医療、教育または関係機関が連携をして、ヤングケアラーそしてケアラーを早期に発見して、本当に適切な支援につなげる必要があるのではないかと思っている。
・　学校で、ヤングケアラーに関して、もう少し知っていただけたらなと思うのは、支援している子供の中には、やはり欠席が多い。
　不登校の場合もあります。
　「この子が学校に行きたがらない」と言うのですけれど、実は、その子はさっき言ったように、妹を見ないといけないから休んでいる、「行きたい」、不登校とか自分が望んでいるわけではない。
・　そして、遅刻や早退が多く、提出物が遅れがちになります。
・　子供は、優等生でしっかりしているほど、ヤングケアラーになりやすい現状がある。
・　そして、大人と話が合う子がいる。
　いろいろ話をしてみると、親の介護をしている子であったりします。
・　そういう子は、ものすごく周囲に気を使います。
・　それと、食材の買い物をしていたり、幼い兄弟の送迎をしていたりして、学校関係がこういった子供が、もし、いた場合は、ヤングケアラーなんじゃないかと気づいていただけたらと思います。

・　また、高齢者とか障害者関係また行政とか、その家族の介護、介助もしている姿を見た時に、なんでこの時間に子供がいるのだろうとか、家庭に訪問をした際に、何でこの時間にここにいるのかなとか考えてみてください。相談に来られる人の中にも、この年代の子が一緒に来るはずがないのにという時間に子供と一緒に来られる人がいる。
・　そういった場合は、親と子供と、別で相談をすることにしている。
　子供は別に相談に来ているわけではないが、分けて話してみようと言って、分けてお話をする。
・　病院でも、付き添いをしている姿、平日に学校があるけれど付き添いをしている場合は、ヤングケアラーの可能性がある。
・　あとは、本人の身なりが整ってない子が多い。
　家の手伝いをしないといけないので、自分の洋服にかまう暇がない、私が支援しているある子供はずっと同じ服を着ている。
　学校から、「ずっとこの子が同じ服を着ている」という話があり、その子の家に行き、話をしたら、実はその子はヤングケアラーで、お母さんもお父さんも障害がありました。
　障害があることで、子供の洋服とかの選択が上手にできないわけです。
　その子が着たくて、ずっと着ていたわけではなかったという事案もありました。
・　そして、地域では、仕事とか学校に行っている時間によく姿を見るとか、毎日のように、この子は何で洗濯をしているのかとかですね。
・　また、自治会の集まりに、大人の中に、私、小学生で参加していました。
　昔は、ごみ袋も自治会で配られており、大きい袋を持っていって、配られるごみ袋入れて、本当に、引きずりながら帰っていました。
・　自治会の会議では、大人が話すことは、小学生だから、「偉い」と言われるけれど、分からないのです、ちんぷんかんぷんです。
・　でも、「母が病気です」と言っても、自治会というのは当番が回ってきていたので、私が行くしかなかったという現状があった。

【ケアラー、ヤングケアラーへの支援の在り方】
・　身近な場所でケアラーを支えるのは、地域包括支援センターだったり、民生委員だったり、地域住民だったり、医療機関だったり、社協さんだったりします。食べ物がないという人には「フードバンク」、こういった福祉だけではなく様々な機関が連携をしないとできない。
・　ヤングケアラーは、一つの関係機関だけでは絶対解決はしません、しない問題です。
・　そして、特に、ヤングケアラーの場合は、こども食堂だったり、民生委員だったり、地域住民、フリースクールだったりの学習支援、「フードバンク」とか、こういった方達で提携する必要があると思う。
・　教育委員会、児童福祉分野、障害福祉分野、高齢福祉分野、医療分野、その他福祉分野、こういった方たちが連携をして支援をしていくというのが、一番重要であると思う。
・　私たちの団体が、何でヤングケアラーの総合相談窓口を作ったかというと、周りに

ヤングケアラーの相談窓口が無かったというのが一つ、うちの団体が、就労支援もし、ＤＶで逃げてくる母子生活支援施設も運営をしている。

そのほか、こども食堂だったり「フードバンク」だったり、学習支援だったり、あと不動産支援だったり、いろいろな支援をしている。

・　ですから、この支援がヤングケアラーに繋がると思い、うちが立ち上げようと思って立ち上げた。

・　そして、ケアが子どもたちに及ぼす影響は、いろいろな機会が奪われてしまうということで、人生全体に影響があります。

・　熊本の大学を卒業して、本当は弁護士になるはずだった方は、結局、弁護士にはなれずに、今もお仕事はしていない状況です。

・　どうしても、他人と比較して自分の置かれている状況が鮮明になり、自己嫌悪感とか劣等感とか、諦めがあります。

・　私も、友達と比べて、何でなんだろう、何で、何で、何でとずっと思っていましたが、最後には諦めました。

だって、自分の大好きな親のことです、諦めるしかないのです。

・　それで、生まれ育った地域でどうしてもそういう人たちは孤立をしていきます、人との関係性とか繋がりがなくなっていきます、自分からやっぱり知られたくないって、切って行く場合もあり、社会生活上の不利を生むという状況になってくる。

・　どうしても傷つきやすさ、生きづらさっていうのを引き起こす。

・　10 代から 40 代 50 代の方もいますが、皆さん、傷つきやすいです。

あと、生きづらさを感じられている方たちばかりです。

・　そして、現在の困難な状況に、本当に気づかない、気づくことができない、支援を必要としない、そういう人たちもいる。

なぜかというと、気づいていないからです。

・　これは、ケアラーのことではないが、私が支援をしているご家庭は様々な環境の家庭があります。

・　おばあちゃんがお孫さん 2 人を育てています、お母さんは亡くなられています。

その子供たちに、ときどき食料を持っていきますが、その子が、持って行ったアンパンマンのパンを、その場で開けて食べた後、ごみを床に捨てていく。

それで、「なぜ、ごみ箱に捨てないの」と言うと、その子が「掃除するのは学校でだけ、家では、ごみは全部床に捨てるってなっているよ」と言う。

「違うんだよ、こうこうなんだよ」と話しても、ゴミを床に捨てることが、違うということに気づいていないのです、気づくことができないのです、だから、支援を必要としていない訳です。

・　だから、その子には、掃除の仕方や洗い物の手伝いの仕方とかを教えているところです。

・　私たちの子供ヤングケアラー総合相談窓口の事例になりますが、昨年の 11 月 1 日に開設をいたしました。

10 時から 19 時、時間外は先ほど言ったように、電話は全部転送になる。

相談の手段は、電話、メール、ラインで、来所の場合もある。

・　相談事例の１ですが、住民の方からのご相談でした。
　「中学生と高校生の子供が食事をしていない、親の世話をするために学校を休みがち、中学生は不登校、高校生は日々疲れている、父親に障害があって母親はもう鬱病で、子供たちが、ヤングケアラーではないか」という通報がありました。
・　様々な機関に連絡し、支援の有無や内容を確認した。日頃から連携している機関の為、簡単な情報共有をしていただけた。
・　足りない支援を繋げた後、近所の方に、今後の見守りをお願いをしました。
　見守りに行く時に、何かいるようだったら、うちの「つなぐバンク」から食料をお渡しするので、見に行ってくださいとお願いをしている。
・　ヤングケアラーの相談受付で、相談を聞いて終わりではなく、こういった関係機関と連携して支援をしていく、この支援をしたからすぐ変わるというものではなくて、やはり長期になっていくと思います。
・　また、私たちの団体がフードバンク＆グッズバンクや学習支援も行っているので、このご家庭の支援を続けているという現状です。

・　そして、他県からラインでの相談事例になります。
・　母親が統合失調症、学校も母親が決めたところに行く、宗教団体に母親が入っていて、学校に苦情を言いに行く。
「今日使っている食材は福島の食材だろう、毒が入っているんじゃないか」とか、日々監視されて家事全般を行っている状況の高校生です。
　コロナワクチンを接種したいが、コロナワクチンを接種するとマイクロチップが体に入るから接種はさせないと言って、ワクチンの接種券を全部捨てました。
・　この場合、どういうふうに支援をしたかというと、母方のおばさまが近くに住んでおり、子どもは高校生でしたので、おばさまに見守りをお願いした。
・　高校にも、何かあればということで見守りをお願いした。
・　そして、私たちヤングケアラー総合相談窓口で行ったのは、関係機関との連絡構築です。
・　多機関型地域包括支援センターに連絡をし、母親への支援お願いと市役所と連携をとりワクチン接種券を再発行していただいた。
・　市役所の方は、ものすごくいい方で、最初、受け入れにちょっと難色を示されたのですが、娘さんに一度相談に行っていただき、私に繋いでいただき、市役所にワクチンの接種券の再発行お願いして、おばさんの家に送ってもらうことにした。
・　おばさんの家に送っていただき、無事３回接種まで終わりました。
・　この子は高校 3 年生で、最初は、大学は行かないと言っていたが、大学に行ってみたらということで、勉強を、約２ヶ月、オンラインで教え、大学に合格したので、不動産の支援とか、お家の支援とかをし、大学生になっております。
・　フードバンクの方と連絡をとり、食材支援をこのご家庭には行っています。
　うちがフードバンクで、全国のフードバンクと繋がっているので、食糧支援をお願いしました。

・　この子にも「何でうちにラインしてきたの」と言ったら、「どこも相談窓口がなくて、ネットで調べて見つけた」と言っていたのが現状です。
・　そういった形で、県外からの相談も多いっていう現実があります。

・　相談事例の三つ目になります。
・　知人からの相談で、1人親家庭で、祖母ががんで自宅療養中、母親がパート就労中で休みがち、保育園の子供2人とも発達障害です。
・　ダブルケアで、怒鳴り声、お腹をすかせているということで、このお母さんの知人からの通報で、「自分がどういった支援をしていいのかがわからないから教えてください」という形でした。
・　知人の方が見守りを行っていただく、そして、訪問看護等の支援もできるようになりました。
・　私たちの食糧支援をしている「つなぐバンク」から食料もお渡しすることにし、ヤングケアラー総合相談窓口では、見守りと関係機関の調整を行いました。
・　お母さんの就労支援を現在していますが、お母さんはパートで、調理員の免許を持っていて調理をしている、ただ、やはりフルタイムで働きたいということと、あとパソコンを使えないということでしたので、うちでパソコン検定が取れるので、パソコンを教えて、パソコンが使えるようになると、就職も事務系にいけるのではということで、その支援をしている段階です。
・　こども食堂は、夕食支援をしています。
・　私がなぜ子供ヤングケアラー窓口ではなく総合相談にしたかというと、総合的に支援をしないと、これは解決ができない部分があるのではないかと思う。
・　地域共生力で地域課題を支援する総合支援事業である「つなぐバンク」を行っていますが、この「つなぐバンク」を行うに当たり、医療、福祉、法律など沢山の専門機関はあるが先ほど言ったように、入口がない。
・　相談したいけれど、どこに架けていいかわからない。
・　その入口を作ろうということで、「つなぐバンク」を作りました。
・　支援が届きにくい家庭を取り残さない新しいアプローチで、みんなを支えるという部分になりますが、行政から見えない層が一番支援に繋がらない、ヤングケアラーだったりケアラーだったり、ひとり親家庭のお母さんでいろいろな支援は受けていないお母さんたちなど、支援のはざまの人たちは、その家庭との関係構築というのが足りなくて支援に繋がり難いという実例というのも多いので、私たちは、その関係構築から作っていく必要があり、こういった方たちの支援をしたいということで、行政が把握してる家庭だけではなく、行政の支援に繋がっていない家庭が存在しているというのを知っていただきたいというのもあって、「つなぐバンク」を行った次第である。
・　この「つなぐバンク」は、フードバンク、グッズバンクです。
・　食べ物とか事務用品とかをお渡しする機能と、相談機能、そして関係機関との連携機能を持ったシステムがつなぐＢＡＮＫです。
・　市・町の行政の現況届の際に、チラシを同封しご本人が自分は食料支援が必要と思った方がご自身で申請をしてくる。

・　なお、生活保護世帯は対象外です。
　なぜかというと、生活保護世帯は食糧費が入っているということと、ソーシャルワーカーが、月 1 回世帯の状況確認をするので、うちの支援は必要がないということで外している。
・　チラシは明るいフォントにして分かりやすく、相談を受けやすい、申し込みをしやすい形にしている。
・　申し込みが簡単にできるようにスマホで数分で終わる形にもしている。
・　まず、支援を受ける方たちに、登録をしていただく。
・　子供の学年に合わせ上履きをお渡ししている。
　また、文房具とか、ピアニカがいるときはピアニカを渡している。
・　そして、皆さん、どうしても平日は夜遅くまで、仕事をしており、食料を渡すのは週末にして、会場も駐車場が無料で、行きやすいアクセスのところで支援をしている。

・　相談に関しても、今は、歯科相談、婦人科相談、心の相談とか貸付の相談だったりとか、「相談に行きたいけれど、どういうふうにしたらして行ったらいいのか」という相談だったりとか、「子供さんがちょっと暴れたりするので、一時保護というのをできるのか」という相談だったりとか、そういった相談を当日受けます。
・　予約制ですけれども予約がなくても当日できる状況になっています。
・　これがお渡ししている様子ですが、紙袋にこのように入れて、ボランティアのスタッフの人達でしている。
・　このような形で、総合的な支援をしていく必要がある。

・　この事業はどこからも運営費も何も、貰っていない。寄付で運営されている。
　食品は、全部食品ロス、全国から来ます。
・　そして、分けている方たちは、皆さん企業の方や行政の方や個人の方です。
・　この右上を見てください。これが全部捨てている部分です。
　長崎県は、お茶は、軽く一杯分で、約 103 グラムを毎日捨てているぐらい食品ロスがある。
　その食品ロスを貧困に繋げ、その方たちはその食品ロスを受け取るときに、相談もできることになる。
・　学習支援もしている。ヤングケアラーに学習支援をしており、月曜日から土曜日まで、月延べ 200 人ぐらいが参加をしている。
　小学校から高校生まで、市内 7 ヶ所で行っており、これも全部、どこからの支援も受けずに、寄付だったりとか、助成金だったりで、運用をしている。
・　ヤングケアラーでここに来られない場合は、タブレットをお貸し、オンラインで教えている。
・　これが、教えている状況ですが、見ると分かるように、必ず食べ物を渡して勉強してます、おなかが空くとどうしても勉強できないからです。
　こういった形で、7 ヶ所の会場で週 12 回行っています、これがオンラインの様子です。

・　子供たちがコロナで会場が借りられないときはオンラインでずっと教えている状況です。

・　11 月から新規のオンライン専門学習支援を行っていく。
・　これは、長崎市外の子供さんで、学習支援を受けたいけれど、ちょっと遠いとか、周りに塾がないとか、塾に行くお金がないとか、いろいろな悩みがあるお子さんに、5 時から 8 時まで行っていく予定です。
・　今回は、雲仙市、対馬市、西海市で、まず始める予定にしている。
・　なぜこの三つなのかというと、つなぐバンクがあるところです。
　他の支援もできるということで相談の支援から食糧の支援からできるということになる。
・　実は、雲仙の方に、新しい居場所を来年 3 月に作る。
　こども食堂とか学童とかいろいろあるが、この居場所は、学校が終わってきたら勉強をして、おやつを食べて、そして、地域の方たちと触れ合って、夜ご飯を食べて、お風呂に入りたい子は風呂に入って帰る。
・　お母さんお父さんが 8 時ぐらいに迎えに来るという形で、地域の方たちが地域の子供を育てようという場所になる。
・　私が支援した中で、どうしても家族だけで子供にいろいろ教えていくのは難しいという現状があるということがあったので、地域で地域の子供を育てようという場所になる。
・　今後の「つなぐバンク」というのは、私たちのこのヤングケアラーも含めてのノウハウを、県外に、市外に、繋げようと思っている。
・　私たちがしているこども食堂、無料学習室、ランドセルの支援、そして「つなぐバンク」、そして訪問型支援、先日も高齢の方のお家の隣に引っ越しを作業された方から電話があり、「実は隣の家を覗いたら、76 歳のおじいちゃんが裸で震えていると、3 日間ご飯を食べてないんで、そちらで支援できますか」と、架かってきて、夜の 8 時ぐらいで、すぐ事務員と一緒に行って、家を探し切れなくて 1 時間グルグル回って、探して見つけて行ったら、真夏の暑いところで、電気、ガス全部止まっていました。
・　手で持つ扇風機を持って、パンツ 1 枚で上半身裸でごみの中でした、話を聞いたら、生活保護は受給はしているが、障害があり歩くのができないということで、タクシーを使ったりされて金がもう無いということで、すぐ、生活保護担当者と連絡を取り、今後の支援だとか、障害が出ていたので、障害者手帳を取るような支援とかをした。
　3 日間食べていないということで、まずお粥を食べていただき、あと 2 日分のお食事を置いてきた。
・　その方は、山の上に住まわれていて、どうしても足が悪くて動き難いので、お家も転居しようと、今、生活保護と打ち合わせをして引っ越しの準備とか、他の関係機関と連絡をして支援をしている現状です。

・　そのほか、ケーキの支援や、付き添いの支援、外国人の支援というのもしている。
・　こちらで暮らしている外国の方で、子供が学校に行っているけれど、プリントが日

本語で分からない。

- 今は、スマホでかざせば、英語になりますけれども、スマホでしたときは、分かるけれど、ペーパーをいっぱい重ねていけば、この間見たこの部分というのは、どのペーパーかが分からないということで、今はお便りをいただいたのを全部うちの方で訳をしている。
- 英語に訳したり、フランス語に訳したり、訳して全部同じような形にして、ホッチキス止めしてお渡しし、このペーパーの内容はこれと分かる形で支援をしている。
- あとは、ケアラー、ヤングケアラーの支援、無料オンライン制の学習室というのをしているので、この機能を県内に拡げていけたらいいのではないかということで動いています。
- 地域の特徴に合わせ、カスタマイズをしたり、地域の団体とか支援者企業とか行政と連携をしていったらいいのではないかと思っている。

- 今、「つなぐバンク」が、対馬市、雲仙市、西海市、今年の 12 月から諫早市も始まるので、ここでは、さっき言った全部の支援をしていく。
- 支援をするのに、どこからかお金を貰っているわけではない。
- 全部、寄付であったり、そういったもので動いている。
- ただ、雲仙市も対馬市も諫早市も西海市も行政と連携をしている。

行政から支援をして欲しいところにも行っているし、自分たちが支援しているために、ちょっと行政に繋げたほうがいいというものは行政に繋げます。

- 去年の 11 月にヤングケアラーの窓口を作ったので、ヤングケアラーの相談の受け入れをお願いしている。
- 各地からの相談対応でできない部分は、長崎の方で対応するという形で今動いています。
- 今後は、災害の時の食糧支援を、私たち「つなぐＢＡＮＫ」ができるのではないかと考えている。
- 行政が食糧支援をする、そのプラスアルファ、本当に子供たちが、ちょっとほっとする、甘いものを食べるとほっとします、そういった支援もできるのではないか、各地域の福祉を繋ぐ窓口ができるのではないかと思っている。
- 行政の公平なサービスがあるなかで、私達、民間の団体がいろいろな活動をこのように行っている。
- 多様な活動がある市町では、本当に、皆が選べると思う。

行政のサービスしか無いとなると、選べない部分もあり、どうしてもそれにそぐわない人達もいるので、私達みたいな団体が、ヤングケアラー、ケアラーも含めて、いろいろな活動を各地でしていくと、本当に県内全域で支援ができるのではないかと思っている。

- 今後、行政と連携した「つなぐバンク」を拡げると、本当に様々な支援が地域に根差すのではないかと思っている。
- ケアラーやヤングケアラーの支援は、相談窓口を作るだけでは繋がりません。

連携した入口が必要だと思う。

- 本当に、この場をいただき、長崎県の孤立している家族に寄り添って、本当に家庭の未来を一緒につなげていければと思う。
- 今から、この「つなぐバンク」を、ヤングケアラーの支援を含めて拡げて参りたいと思っている。
- 市町の行政に話に行ったとき、なかなか難しかったから、皆様のお力をもしかしたら借りるかもしれません、よろしくお願いします。